

【付属特典3】AI利用に関する“超入門” Q&A集

このQ&A集は、「訪問看護報告書・AI活用講座」を受講される中で、皆さんが疑問に思うかもしれない点や、少し不安に感じるかもしれない点について、回答したものです。ご参照ください。

【基本的なこと・AIへの不安】

Q1. そもそも「AI」って何ですか？ ロボットみたいなもの？

A1. 難しく考えなくて大丈夫です！ AIは「人工知能」の略ですが、人型ロボットばかりではありません。簡単に言うと、「コンピューターが、人間のように考えたり学んだりする技術」のこと。今回は、皆さんの「お願い」を理解して文章を作る「文章作成アシスタント」のようなAIを使います。スマホの音声操作などもAIの一種ですよ。

Q2. AIを使うと、私たちの仕事はなくなってしまいますか？

A2. いいえ、ご安心ください！ AIは仕事を「奪う」のではなく「助けてくれる」存在です。報告書作成のような「作業」はAIに手伝ってもらい、私たちは「人にしかできない大切なケア」にもっと集中できるようになります。AIは頼れる「サポーター」です。

Q3. AIが報告書を書いたら、看護師/療法士の「観察眼」や「判断力」は鈍るのでは？

A3. 良い視点ですね。AIはあくまで「下書き」を作るアシスタントです。AIが作った文章の元になった記録を書いたのは皆さんですし、最終的に内容を確認し、専門職としての視点で加筆・修正するのも皆さん自身です。AIを活用することで、むしろ記録の振り返りやアセスメントにより時間をかけられるようになる、と考えることもできます。AIに頼りきりになるのではなく、「道具」として賢く使うことが大切です。

Q4. 誰が責任を取るの？ AIが間違った提案や文章を作成したら？

A4. 非常に重要な点です。AIが作成した内容は、必ず私たち人間が確認し、修正する必要があります。そのため、最終的な報告書の内容に対する責任は、AIではなく、それを作成・確認した私たち専門職にあります。AIは便利な道具ですが、その出力結果を鵜呑みにせず、専門家としての判断を必ず加えるようにしてください。

Q5. AIを使うことで、逆に手間が増えることはないですか？

A5. 慣れるまでは、少しだけ操作に戸惑ったり、プロンプトを考えたりする手間があるかもしれませんが、しかし、講座で学ぶ手順や付属のプロンプト集を使えば、その手間は最小限に抑えられます。慣れてくれば、ゼロから報告書を作成する時間や労力に比べて、圧倒的に効率が良くなることを実感できるはずです。最終的なチェック・修正の手間は必要ですが、トータルで見れば大きな時間短縮につながります。

Q6. AIがステーションの「色」や「特徴」(報告書の書き方など)を理解してくれる？

A6. AI自身が自発的に「〇〇ステーションらしさ」を理解するわけではありません。しかし、お手本となる過去の報告書をAIに読み込ませて、「この見本を参考にして」と指示(プロンプト)を出すことで、皆さんのステーションの書式や文章のトーン(丁寧さ、言い回しなど)に近い報告書(案)を作成させることが可能です。

Q7. 患者さんやご家族に、AIを使っていることを説明する必要はある？

A7. 現時点では、必ずしも説明する法的な義務はありません。AIはあくまで私たちが報告書を作成するための「内部的なツール(下書き支援)」だからです。ただし、ステーションとしての方針や、状況に応じて説明が必要と判断される場合もあるかもしれません。この点については、管理者に確認するのが良いでしょう。

Q8. 倫理的な問題はないのですか？

A8. AIを医療・介護分野で利用するには、倫理的な配慮が重要です。特に、個人情報の保護(Q6, Q9参照)と、最終的な判断・責任は人間が持つこと(Q4参照)を徹底すれば、報告書作成支援という目的においては、現時点での大きな倫理的問題はクリアできると考えられます。常に利用者さんの尊厳と権利を守る視点を忘れずに活用することが大切です。

【パソコン操作・ITスキルへの不安】

Q9. パソコン操作が苦手なのですが、本当に使えますか？

A9. はい、ご安心ください！ 今回の講座で紹介しているAI(Gemini)は非常にシンプルで、直感的に使えるように作られています。基本的な操作はメールやLINEを使う感覚に近いです。付属特典の『Gemini操作 完全マニュアル』を見ながら、ゆっくり試してみてください。

Q10. どのAIを使うのですか？ なぜそのAIなのですか？ (ChatGPTじゃないの？)

A10. この講座では、主にGoogle社のAI「Gemini」を例に解説しています。理由は、①安心感、②手軽さ、③操作のシンプルさに加え、④特に「日本語の報告書」作成において自然な表現が得意だと考えているからです。有名なChatGPTも素晴らしいAIですが、今回の目的にはGeminiがより適していると判断しました。

Q11. AIを使うために、特別なソフトをパソコンに入れる必要はありますか？

A11. いいえ、基本的には必要ありません。インターネットに接続できるパソコンやスマートフォンがあれば、Google Chromeなどのウェブブラウザから直接アクセスして利用できます。

Q12. スマホでもパソコンと同じように使えますか？

A12. はい、基本的な機能はスマートフォンからでも利用できます。ただし、看護記録のファイルを見ながらプロンプトを修正したり、生成された報告書案を確認・修正したりする作業は、画面の大きいパソコンの方が行いやすい場合が多いでしょう。

【具体的な使い方・トラブルシューティング】

Q13. うまくプロンプト(指示)が書けないときはどうすればいい？

A13. まずは、付属特典の『訪問看護報告書作成“専用”プロンプト集』を活用してください！ 例文をコピー＆ペーストし、ファイル名や日付など必要な部分だけ修正すればOKです。慣れてきたら、プロンプト集の例文を参考に、少しずつ自分の言葉で指示を加えてみましょう。「具体的に」「分かりやすく」がコツです。

Q14. AIの回答が毎回違う気がするけど、大丈夫？

A14. はい、AIは同じ指示でも、毎回少しずつ違う表現で回答を生成することがあります。これはAIの特性の一つです。大切なのは、どの回答であっても、内容が元の記録と合っているか、報告書として適切かを、必ずご自身の目で確認し、必要なら修正することです。複数の回答案から、一番しっくりくるものを選ぶ、という使い方もできます。

Q15. 長い記録や複数の記録(ファイル)を一度に処理できますか？

A15. はい、可能です。GeminiなどのAIは、比較的長い文章や、複数のファイルを一度にアップロードして、それらをまとめて処理する能力があります。例えば、1ヶ月分の記録ファイルをまとめてアップロードし、「これらの記録全体から報告書を作成して」と指示することができます。ただし、あまりにも大量の情報を一度に処理させると、精度が落ちたり時間がかかったりする場合もあるので、最初は数日分など、調整可能な量から試してみるのが良いでしょう。

Q16. 報告書以外の業務(看護計画やサマリー作成など)にも使えますか？

A16. はい、応用は可能です。AIは文章作成だけでなく、情報収集の補助、文章の要約、アイデア出しなど、様々なことができます。例えば、「〇〇という症状がある利用者向けの看護計画のアイデアを出して」とお願いしたり、新しい疾患について「〇〇病について、看護師向けに分かりやすく要約して」と頼んだりすることもできます。ただし、その場合もAIが出した情報は鵜呑みにせず、必ず信頼できる情報源で裏付けを取り、専門家として内容を吟味・修正する必要があります。

Q17. 作成した報告書(案)の保存方法は？

A17. Gemini自体が文書ファイルとして直接保存する機能は限定的です(2025年4月現在)。AIが生成した報告書(案)のテキストをコピーし、WordやGoogleドキュメント、ステーションで使っている電子カルテシステムなどに貼り付けて保存・編集するのが一般的です。

Q18. 途中で操作がわからなくなったら？

A18. まずは、付属特典の『Gemini操作 完全マニュアル』や、このQ&A集を落ち着いて確認してみてください。それでも解決しない場合は、一人で悩まず、ステーションの管理者や、AI導入の担当者、あるいはAIを使っている同僚に気軽に質問しましょう。

Q19. AIがうまく動かない(反応がない、フリーズするなど)ときは？

A19. まずは、インターネット接続が安定しているか確認してください。次に、お使いのウェブブラウザ(Google Chrome推奨)を再読み込み(リロード)したり、一度閉じて開き直したりしてみてください。それでも改善しない場合は、少し時間をおいてから再度試すか、パソコン自体を再起動してみるのも有効な場合があります。

【セキュリティ・個人情報(深掘り)】

Q20. 利用者さんの個人情報をAIに入力しても、本当に安全なのですか？

A20. 再度強調しますが、AI自体のセキュリティは高いレベルで対策されています。しかし、絶対的な安全のためには、私たちがルールを守ることが不可欠です。最も安全なのは、ルール1:個人特定情報(氏名等)は入力しない、または仮名等に置き換えることです。これを徹底し、ルール2:事業所のルールを守り、ルール3:生成文を厳重にチェックすれば、リスクを管理しながら安全に活用できます。

Q21. アップロードしたファイル(記録Ⅱなど)はどうなるの? AIはずっと覚えている?

A21. アップロードされたファイルは、通常、AIが指示を処理するために一時的に利用されます。Googleのプライバシーポリシーでは、ユーザーが明示的に許可しない限り、ファイルの内容がGoogleの広告表示などに使われたり、他のユーザーに見られたりすることはないとされています。また、AIが特定のファイルの内容を永続的に「記憶」し続けるわけではありません(※技術的な詳細は複雑ですが、一般的な利用においてはそのように考えられます)。ただし、これもステーションのルールや、利用しているアカウントの種類(個人かWorkspaceか)に関する規定を必ず確認してください。心配な場合は、やはり個人情報をマスキングしたファイルをアップロードするのが最善です。

Q22. ステーションの外(自宅など)でAIを使っても大丈夫?

A22. これは、必ず所属するステーションのルールを確認してください。ステーションによっては、セキュリティの観点から、事業所内のネットワークや端末での利用のみを許可している場合があります。許可なく個人の端末や自宅のネットワークから業務に関する情報(たとえマスキングしていても)をAIに入力することは、情報漏洩のリスクを高める可能性があるため、自己判断せず、必ず規定に従ってください。

Q23. 共有のパソコンで使う場合の注意点は?

A23. 共有パソコンで利用する場合は、特に以下の点に注意が必要です。

- 利用後は必ずログアウトする: 自分のGoogleアカウントから必ずログアウトし、他の人が自分の利用履歴などを見られないようにしてください。
- ブラウザの履歴やキャッシュ: 気になる場合は、利用後にブラウザの閲覧履歴やキャッシュを削除することも検討しましょう(方法はIT担当者や管理者に確認)。
- ファイルの取り扱い: 看護記録などのファイルをパソコンに一時保存した場合は、作業終了後に確実に削除してください。
- ステーションのルール: 共有PCでの利用に関するルールが別途定められている場合は、それに従ってください。

Q24. もし間違っって個人情報を入力してしまったら、どうすればいい?

A24. まず、すぐにその操作(送信など)を中断してください。もし送信してしまった場合は、速やかにステーションの管理者または情報セキュリティ担当者に報告し、指示を仰いでください。自己判

断で隠したり、放置したりするのは絶対にいけません。正直に報告し、組織として対応することが重要です。AIの利用履歴が削除できる設定になっている場合は、管理者の指示のもと、該当する履歴の削除を行うことも考えられます。

【導入・チームでの活用】

Q25. みんながちゃんとルールを守れるか心配...

A25. 新しいツールやルールを導入する際には、そのような心配はつきものですよね。だからこそ、①明確で分かりやすいルールの作成と周知徹底、②導入時の丁寧な研修(この講座も活用してください！)、③お互いに確認し合える・相談しやすい雰囲気づくり、④管理職による定期的な声かけやフォローアップ、といった組織的な取り組みが重要になります。一人ひとりの意識も大切ですが、チーム全体で安全な利用をサポートし合う体制を作りましょう。

Q26. AI導入で、チーム内のコミュニケーションはどう変わる？

A26. うまく活用できれば、ポジティブな変化が期待できます。例えば、報告書作成の時間が減ることで、カンファレンスや情報共有により時間をかけられるようになるかもしれません。また、AIを使う上での疑問点や、便利な使い方などを教えることで、新たなコミュニケーションが生まれる可能性もあります。一方で、ルールが曖昧だったり、一部の人が使っていたりすると、不公平感や混乱を生む可能性もあるため、全員が共通認識を持って進めることが大切です。

Q27. AIが出した報告書(案)、先輩や他のスタッフに見せて相談してもいい？

A27. はい、むしろ積極的に相談することをお勧めします！ 特に慣れないうちは、「この表現で大丈夫かな？」「もっと良い書き方はないかな？」など、AIが作った下書きを元に、先輩や同僚にアドバイスを求めるのは非常に良いことです。ただし、その際も個人情報の取り扱いには十分注意し、氏名などを伏せた状態で見せるなどの配慮を忘れないでください。チームで知恵を出し合うことで、より質の高い報告書作成につながります。

Q28. AIを使うのに、追加の費用はかかりますか？

A28. 今回例に挙げているGoogleのAI(Gemini)は、基本的な機能は無料で利用できる場合が多いです(2025年4月現在)。ただし、より高機能なバージョンや、セキュリティ・管理機能が強化された法人向けの「Google Workspace」の有料プランを利用する場合は、費用が発生します。費用については、ステーションの方針によりますので、管理者にご確認ください。

Q29. 報告書の「質」は本当に上がるの？ 作業が早くなるだけじゃない？

A29. AIは直接的に「質」を保証するものではありません。しかし、AIによって報告書作成の「時間」と「手間」が大幅に削減されることで、私たち専門職が「考える」「アセスメントする」「ケアを計画・実施・評価する」といった、より本質的な業務に集中できる時間が増えます。その結果として、ケアプランが深まったり、利用者さんへの関わりが密になったりすることで、間接的にケアや報告書の「質」の向上に繋がる可能性は非常に高いと言えます。

Q30. これからAIはどうなっていくの？ もっと賢くなる？

A30. はい、AIの技術はものすごいスピードで進化しています。これから、もっと日本語が上手になったり、より専門的な内容を理解したり、音声で記録したものを自動で文章にしてくれたり...といった、さらに便利な機能が登場する可能性は十分にあります。だからこそ、今のうちからAIに慣れ親しんでおくことは、将来必ず役に立つはずです。変化を楽しみながら、新しい技術を上手に取り入れていきたいですね。

このQ&A集が、皆さんの疑問や不安の解消に少しでも役立つことを願っています。